高等学校 令和6年度（１学年用）　教科　家庭　科目　家庭総合

教　科：　家庭　科　目：　家庭総合　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　7 組

教科担当者：　（１組：木村・山本）　（２組：木村・八木）　（３組：木村・田村）　（４組：木村・八木）　（５組：木村・田村）　（６組：田村・山本）　（７組：木村・山本）

使用教科書：　（　教育図書　未来へつなぐ　家庭総合　３６５　）

使用教材：　（　なし　）

科目の目標

【知識及び技能】　自分の生涯を見通しながら家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要である科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　自分の現在をみつめ、さらに家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、当事者としての意識を高めながら生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】　自己理解を深めていくと同時に、様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ることを通して改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
①確認テスト ②授業プリント ③授業内での発言・発表等	①確認テスト ②プリントの記述 ③実習の振り返り	学習に取り組む状況・振り返りの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日） 1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	配当時間	評価
1学期	4	ガイダンス・衣生活の基礎知識 ・授業の決まりを知る。 ・衣生活の知識を身に付ける。 ・衣生活に関する基礎的な知識と技術を、生活文化・生活科学の二つの視点から指導する。	・学習内容と授業の学び方、授業ルールを理解し、自ら目標を立てる。 ・被服の管理について理解し、生活に実践できる。 ・繊維の成り立ちや衣服材料の性質や製造過程について理解することができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度								4	
	5	基礎技術 ・小中学校で学習した裁縫の基礎技術を復習し、知識と技術を身に付け、実生活で活かせるように指導する。	・エプロン製作のため、基礎縫いの技術を学習する。 ・玉結び、玉留め、まつり縫い、ボタン付けの方法を復習し、基礎縫い技術を習得する。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								8	
	6	基礎技術・エプロン製作 ・小中学校で学習した裁縫の基礎技術を復習し、知識と技術を身に付け、実生活で活かせるように指導する。	・基礎縫い技術を習得する。 ・基礎縫い技術を活かして、エプロン製作を行う。 (エプロンのボタン付けをする。) (裾のまつり縫いをする。)	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								6	
	7	エプロン製作 ・小中学校で学習した裁縫の基礎技術を復習し、知識と技術を身に付け、実生活で活かせるように指導する。	・基礎縫い技術を活かして、エプロン製作を行う。 (裾のまつり縫いをする。) (エプロンのボタン付けをする。)	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								6	
2学期	9	刺し子の基礎縫い ・日本の伝統的手法である刺し子を通して、針と糸が使えるように指導する。 また、ハサミなどの道具の扱い方を正しく身につけられるように指導する。 ・自分の力で仕上げる達成感を感じさせ、学校生活や家庭生活で応用できるように指導する。	・刺し子に関する技術を理解し、縫うことができる。 ・刺し子を通して、日本の伝統文化を理解する。	○	○	○	・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								8	
	10	刺し子 ・日本の伝統的手法である刺し子を通して、針と糸が使えるように指導する。 また、ハサミなどの道具の扱い方を正しく身につけられるように指導する。 ・自分の力で仕上げる達成感を感じさせ、学校生活や家庭生活で応用できるように指導する。	・刺し子をしるし通りにきれいに縫うことができる。 ・自分のイメージに合った刺し子の図案を色を表現できるようになる。 ・作業工程を理解しながら、自ら計画を立て、行動することができる。	○	○	○	・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ								6	
	11	刺し子 ・日本の伝統的手法である刺し子を通して、針と糸が使えるように指導する。 また、ハサミなどの道具の扱い方を正しく身につけられるように指導する。 ・自分の力で仕上げる達成感を感じさせ、学校生活や家庭生活で応用できるように指導する。	・刺し子のしるし通りにきれいに縫うことができる。 ・刺し子の図案をしるしつけし、きれいに縫うことができる。 ・計画通りに作品を仕上げることができる。 ・作業に集中し、取り組むことができる。 ・作品完成までの作業工程を振り返り、日常生活で応用できる力を養う。	○	○	○	・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度 ・作品の出来ばえ ・確認テスト								8	
	12	調理に関する基礎知識 ・調理実習を実施する上で、調理に関する基礎知識を理解させる。	・調理に関する基礎知識を理解することができる。 ・調理の目的や効果的な衛生管理について考えることができる。 ・日本の伝統的な食文化(おせち料理等)について理解し、日常生活とのつながりについて考えることができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度								6	
3学期	1	調理実習・食中毒 ・製作したエプロンを着用して、調理実習を実施する。作業手順を理解させ、計画的に調理できるように指導する。 ・生徒自ら作業手順を計画し、先のことを考えて行動できる態度を養う。 ・食材の特長について理解し、実習と関連付けながら調理できるように指導する。	・実習に使用する材料の特性を理解することができる。 ・包丁や火加減、計量方法など調理の基本を身に付ける。 ・料理の作り方やその理論について理解することができる。片付けも適切にすることができる。 ・他者と協力して片付けをすることができる。 ・食中毒の原因と予防法について理解することができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度								6	
	2	刺し子の基礎知識・布の成り立ち ・刺し子の伝統模様を理解させる。 ・布の成り立ちについて調べ学習などを活用し、日常生活において応用できる力を付けさせる。	・刺し子の伝統的な図柄を理解することができる。 ・着用について、衣類に使用される繊維の種類、糸や布の成り立ちなどを理解する。 ・服がどのように構成されているかを知り、簡単な修繕を行えるような力を身に付ける。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・確認テスト								6	
	3	テーブルマナーの基本知識 ・テーブルマナーについて、ICT教材を使用し、実生活で活用できる力や態度を身に付けさせる。	・テーブルマナーの知識を身に付け、実生活の中で応用する。 ・日本の食事様式を理解し、生活の中で実践することができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度								4	

高等学校 令和６年度（２学年用）　教科　家庭　必修科目 家庭総合

教　科：　家庭　科　目：　家庭総合　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　1 組～　7 組

教科担当者：　（１組：八木）　（２組：八木）　（３組：八木）　（４組：木村）　（５組：山本）　（６組：八木）　（７組：八木）

使用教科書：　（　教育図書　未来へつなぐ　家庭総合　３６５　）

使用教材：　（　）

科目の目標

【知識及び技能】　自分の生涯を見通しながら家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要である科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　自分の現在をみつめ、さらに家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、当事者としての意識を高めながら生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】　自己理解を深めていくと同時に、様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ることを通して改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
①確認テスト ②授業プリント ③授業内での発言・発表等	①確認テスト ②プリントの記述 ③実習の振り返り	学習に取り組む状況・振り返りの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード（指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日） 1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	配当時間	評価
1学期	4	・ガイダンス ・学習内容と授業の学び方、授業ルールを理解させ、自ら目標を立てられるように指導する。 ・食生活に関する基礎的な知識を生活文化の視点から学習させ、実生活に応用できる力を身に付けさせる。	・ガイダンス ・学習内容と授業の受け方を理解する。 ・年間スケジュールの確認し、自分で目標を立てて行動できる。 ・食生活と健康について理解するとともに、よりよく健康に生きるために必要な力を考えることができる。 (なぜご飯を食べるのか) (ライフステージにあった食生活)	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度								6	
	5	・健康を維持する食べ方や食品およびメニューの選択・方法を身に付けさせる。 ・食事によって適量の栄養をバランスよく摂る重要性を理解させる。 ・自らの食生活を振り返り改善の方法を考えさせる。 ・食行動に問題点を発見し、改善できる力を身に付けさせる。	・食事の大切さを理解する。 ・食事の役割を考える。 ・年齢によって異なる食事の仕方を理解する。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								8	
	6	・食生活に関する知識を身に付けさせる。 ・栄養素の働きとバランスの良い食事についてを理解させる。 ・食生活に関する基礎的な知識を生かし、生活文化の視点から自らの食生活について考えられる力を身に付けさせる。	・食品の表示方法を理解する。 ・食中毒について理解を深め、予防法を考えることができる。 ・食品の安全管理について理解し、実生活で応用できるになる。 ・確認テスト	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ ・確認テスト								6	
	7	・生活の基盤となる経済計画の知識理解させる。 ・実生活における経済活動のつながりを理解させ、消費者として適切に行動をできるようにする力を身に付けさせる。	・家計と経済のかかわりを理解する。 ・収入と支出のバランスを理解する。 ・ライフステージを見通した経済計画を考えることができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								6	
2学期	9	・成人年齢引き下げに関する法改正について理解させる。 ・将来自立した生活を考えさせ、必要な費用等を通して、具体的な費用が計画できる力を養う。	・ライフステージによって変わる住要求を考える。 ・平面図を読める力を身に付ける。 ・日本の風土を理解させ、快適な住み方について考えられるようにする。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								8	
	10	・人間の一生について考えさせ、当事者意識を醸成し、自分事として行動できる力を身に付けさせる。 ・家族の形や家族の役割、家庭の機能について理解し、現実生活に当てはめて考えられる力を養う。	・青年期の５つの自立について理解する。 ・将来の職業について見通しが持てるようになる。 ・将来のパートナーとの関係について考えられる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								6	
	11	・家庭生活を営むための家庭経済についての知識を深めさせる。 ・生活の基盤となる経済計画の知識を身に付けさせる。 ・適切な消費行動がとれる力を身に付けさせる。	・生活情報を活用して意思決定をする。 ・契約の重要性を理解する。 ・消費者信用の仕組みを理解し、消費者問題の現状と課題について考えられる。 ・確認テスト	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ ・確認テスト								8	
	12	・家計を生活設計とともに考える力を身に付けさせる。 ・生活と関連のある経済の知識を身に付けさせる。 ・経済計画の考え方を理解するとともに、適切な消費行動ができるように指導する。 ・悪質な商法を理解し、適切な対処方法を身に付けさせる。	・悪質商法を理解し、適切な行動がとれる。 ・消費者保護の仕組みが理解できる。 ・消費者の権利と責任を理解し、賢い消費者としてどう行動してよいか考える。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								6	
3学期	1	・子どもの発育・発達段階を理解させる。 ・子どもの情緒や運動機能の発達を理解させる。 ・子どもの生活習慣と健康と安全について理解させる。 ・子どもについての知識をもとに多面的・多角的視点から現在の子どもに関する問題に着目させ、自ら解決する態度を養う。	・人がどのように発達・発育していくかを理解する。 ・人の成長には人とのかかわりが大切であると理解し、これから自分がどのように人とかかわっていくか考える。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								6	
	2	・遊びの種類と生活課題を理解させる。 ・子どものからだ・こころ・社会的発達を学ばせる。 ・保育環境を整える基盤について考えさせる。 ・子どもの保育に関する福祉サービスを理解させる。	・子どもの成長には、発達段階に応じた親の働きかけが重要であると理解する。 ・様々な子育て支援について理解する。 ・子どもの権利について理解する。 ・子どもの自立に家庭生活が果たす役割を理解し、自分が社会の中で果たす役割を考える。 ・確認テスト	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・確認テスト								6	
	3	・高齢者の身体的変化について理解させる。 ・高齢者を支える法律や支援について理解を深め、社会の一員として高齢社会において何ができるか考えさせる。	・高齢期の心身の変化を理解する。 ・高齢期の生きがいについて理解する。 ・日本の高齢化の状況を知る。 ・高齢社会の理解を深め、自ら課題を解決する。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								4	

高等学校 令和６年度　　教科　家庭　　自由選択科目　　保育基礎

教　科：　　科　目：　保育基礎　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　　3 学年　　1 組～　　7 組

教科担当者：　田村

使用教科書：　（　実教出版　保育基礎　　）

使用教材：　（　　）

科目の目標

【 知 識 及 び 技 能 】　子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させる。

【思考力、判断力、表現力等】　子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】　子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価規準：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。また、保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	子どもの発達をふまえ、現状について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	子どもについての関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。

【知識・技能】　全体の３分の１	【思考・判断・表現】　全体の３分の１	【主体的に学習に取り組む態度】　全体の３分の１
①小テスト ②授業プリント ③授業内での発言	①プリントの記述 ②実習の振り返り ③授業内での発言・発表等	①意欲的に学ぼうとする態度 ②自己評価等振り返りの状況

学期	月	具体的な指導目標	アキルスタンダード （指導項目・内容）	知	思	態	評価の方法	実績（実施日）							配当時間	評価
1学期	4	ガイダンス ・学習内容と授業の受け方、授業ルールを知り、目標を立てる。 ・保育とは ・保育の意義	○ガイダンス ・学習内容と授業の受け方 ・年間スケジュールの確認 ○乳幼児期は健やかな心と体の基礎を築く大切な時期であることを理解し、日々の生活や置かれた環境の中で培われていくことを考える。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度								4	
	5	集団保育の基本 ・集団保育と子どもの成長 ・社会性の発達 遊びと発育 ・季節と遊び	・集団保育の方法と子どもの成長に与える影響を考えることができる。 ・子ども同士の人間関係を作るうえで大人がどのように接していけばよいか理解することができる。 ・四季の行事を模造紙などに表現することができる。 （折り紙や色鉛筆などを使用し製作する）	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								6	
	6	遊びと発育 ・季節と遊び ・伝承遊びの技術	・四季の行事を模造紙などに表現することができる。 （折り紙や色鉛筆などを使用し製作する） ・伝承遊びを知り、日本文化の理解を深めることができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								4	
	7	遊びと発育 ・季節と遊び ・伝承遊びの技術	・四季の行事を模造紙などに表現することができる。 （折り紙や色鉛筆などを使用し製作する） ・伝承遊びを知り、日本文化の理解を深めることができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								2	
2学期	9	子どもの発達の特性 ・発育と発達 ・月齢・年齢別の発育・発達 児童文化財 ・児童文化財とは ・児童文化財の製作 ・ ・	・乳幼児の発育・発達についての正しい知識を習得する。 ・子どもの発達に応じた児童文化財を考えることができる。 ・3歳から6歳児向けの児童文化財で、適切に遊ぶことができる ・児童文化財を製作できる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								6	
	10	児童文化財 ・児童文化財とは ・児童文化財の製作	・子どもの発達に応じた児童文化財や子どもの想像力を養うために保育現場で利用されている表現活動を考えることができる。 ・児童文化財やペープサートなどの教材を製作することができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								6	
	11	児童文化財 ・児童文化財とは ・児童文化財の製作	・子どもの発達に応じた児童文化財や子どもの想像力を養うために保育現場で利用されている表現活動を考えることができる。 ・児童文化財やペープサートなどの教材を製作することができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								4	
	12	児童文化財 ・児童文化財とは ・児童文化財の製作	・子どもの発達に応じた児童文化財や子どもの想像力を養うために保育現場で利用されている表現活動を考えることができる。 ・児童文化財やペープサートなどの教材を製作することができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								2	
3学期	1	・卒業発表会の練習と発表	・製作した児童文化財などを使い、適切な発表の仕方を考え、準備することができる。 ・校内で発表することができる。 ・1年間の振り返りをすることができる。	○	○	○	・授業プリント ・振り返りシート ・意欲的に取り組む態度 ・実習態度・提出物 ・課題の出来ばえ								4	